

中国の文化産業の発展と 政策の方向

清華大学
熊澄宇



中国での文化産業をめぐる議論の始まりは二〇〇三年であった。文化には三種類ある。①手で触れ、目で見ることが出来る（文学、美術、建築、パフォーマンスなど）。②感じる事ができる（思

想、道徳、価値観、宗教、民族）。③人々の行為を規範する制度。このうち、①が製品として成り立ち、消費することが可能な「文化産業」と考えられる。

中国の文化産業は近年成長が著しい。二〇〇六年から二〇一五年で売上高は五倍に伸び、GDPに占める割合は三・八二％である。しかし一人あたりで計算するならば米独日英よりまだ低い。二〇一六年には、新しい業態が急速に発展し、インターネット関連分野が前年比三〇・八％増であったほか、文化産業に従事する中堅企業の役割にも高まりが見られた。文化産業への投資規模も拡大し、政府投資以外に民間資本がこの分野に熱い視線を送っている。資本が入ってくるという

ことは、この分野の利益率が高いと見なされているということだ。

二〇〇四年から二〇一六年までの中国の文化政策の変遷を見ると、従来の文化製造物の加工製造から、対外的な貿易に重点が移っている。これまでは大企業のみを政策論の射程に入れてきたが、他国の例に倣い、中小零細企業にも注目する方向にシフトしていく。二〇一二年までにはGDPに占める文化産業の割合を五％にする計画があるが、GDP自体が拡大しているために厳しい。その為、他の関連産業と組み合わせ、文化産業の構造を変えていく必要がある。文化産業の発展には四つの環境が影響する。講演では文化産業分野ごとの規模と特徴、その原動力となる四要素を示したが、その一つの要素である政策の後押しに「一带一路」がある。

ユネスコの理念にあるように、文化は人々の心の一つにすると同時に、差異をもつ点に特徴がある。その為、数値的な評価のみならず、最終的に世界全体の人が一緒に共通の理想（幸せや穏やかな暮らしを感じられること）を打ち立てていくことこそが、最も重要である。

Profile

熊澄宇
XIONG, Chengyu

● 清華大学教授。国家文化産業研究センター主任。米国防立ペンシルバニア大学にて博士取得。専門は、学際的な戦略研究。中国共産党中央政治局共同勉強会の招待を受け、文化産業の発展戦略について講義を行うほか、「一带一路国民文化産業企画などの国家社会科学基金のプロジェクトを主導。著書に「世界の文化産業研究」、「文化産業研究—戦略と対策」、「コミニケーション社会4.0—中国社会の構築に向けた新政策—」等、多数。